



アップグレード後の作業

- ・アップグレード完了の確認（1ページ）
- ・UCSM のファームウェア バージョンの確認（2ページ）
- ・クリーナが実行中であるかどうかの確認（2ページ）

アップグレード完了の確認

ステップ1 Cisco UCS Manager にログインして、保留中のサーバアクティビティが HX ノードに存在しないことを確認します。

[Servers] タブ > [Servers] > [Pending Activities] タブで、すべてのサーバアクティビティを確認してください。

ステップ2 HX ノードが、期待されるファームウェア バージョンに一致することを確認します。

Cisco UCS Manager で、[Equipment] > [Firmware Management] > [Installed Firmware] タブを選択し、正しいファームウェア バージョンであることを確認します。

ステップ3 SSH を介していざれかのコントローラ VM にログインします。

```
# ssh root@controller_vm_ip
```

ステップ4 HyperFlex Data Platform のバージョンを確認します。

```
# stcli cluster version
```

```
Cluster version: 2.5(1c)
Node HX02 version: 2.5(1c)
Node HX05 version: 2.5(1c)
Node HX01 version: 2.5(1c)
Node HX03 version: 2.5(1c)
Node HX04 version: 2.5(1c)
```

ステップ5 HX ストレージクラスタがオンラインであり、正常な状態であることを確認します。

```
# stcli cluster info | grep -i health
Sample output:
healthstate : healthy
```

UCSM のファームウェアバージョンの確認

```
state: healthy
storage cluster is healthy
```

ステップ6 データストアが稼働中であり、ESXi ホストに適切にマウントされていることを確認します。

HX コントローラ VM から:

```
# stcli datastore list
```

ESXi ホストから:

```
# esxcfg-nas -l
```

ステップ7 アップグレードが完了し、成功したことを確認します。

```
stcli cluster upgrade-status
```

Nodes up to date:

```
[HX-Cluster, HX-Node-1(1.1.1.1), HX-Node-2(1.1.1.2), HX-Node-3(1.1.1.3)]
Cluster upgrade succeeded.
```

ステップ8 使用するブラウザインターフェイスごとに、キャッシュを空にしてブラウザページをリロードし、HX Connect のコンテンツを更新します。

UCSM のファームウェアバージョンの確認

Cisco UCS Manager で、[Equipment] > [Firmware Management] > [Installed Firmware] タブを選択し、正しいファームウェアバージョンであることを確認します。

ハードウェアとソフトウェア間の依存関係の完全なリストについては、[UCS Hardware and Software Compatibility ツール](#)を使用して該当する UCSM リリースを参照してください。

クリーナが実行中であるかどうかの確認

アップグレードが失敗した場合

アップグレードが失敗した場合は、クリーナを実行します。アップグレードを続けないことにしたとしても、この作業は必須です。

クリーナを手動で実行するには、次のコマンドを使用してストレージクラスタクリーナを再起動します。

```
stcli cleaner start [-h] [--id ID | --ip NAME]
```

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--id ID	オプション。	ストレージクラスタノードの ID。ID は、 stcli cluster info コマンドでリストされます。

オプション	必須またはオプション	説明
--ip NAME	オプション。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。

アップグレードが完了した場合

アップグレードが完了した場合は、クリーナが実行中であるかどうかを確認します。指定のノードのストレージクラスタクリーナに関する情報を取得するには、次のコマンドを使用します。

`stcli cleaner info [-h] [--id ID | --ip NAME]`

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--id ID	オプション。	ストレージクラスタノードのID。IDは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
	--ip NAME	オプション。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。

クリーナが実行中であるかどうかの確認